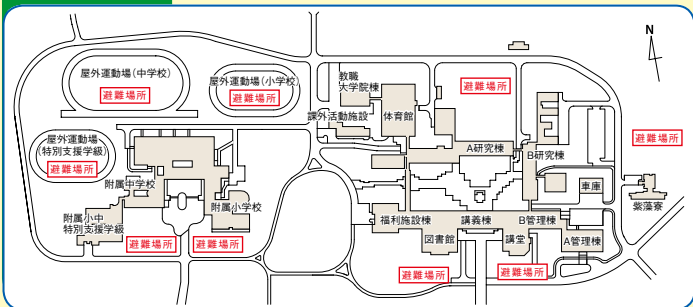
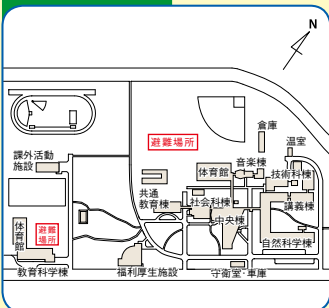


## 大学構内一時避難場所

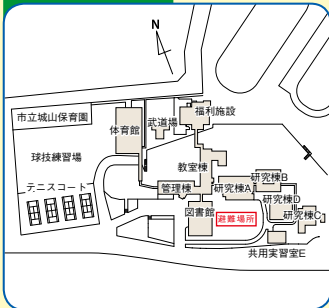
### 札幌校



### 旭川校



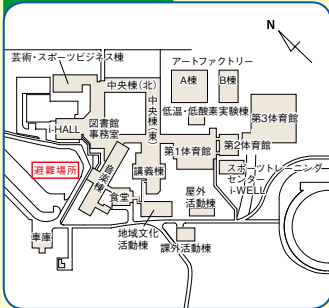
### 釧路校



### 函館校



### 岩見沢校



## 地震が発生したら

- 窓や棚等、ガラスが割れたり倒れやすいものから離れ、落下物に注意
- むやみに動かず安全を確保
- 非常口やドアを開けて避難口を確保
- 火気を使用している場合は、身の安全を確認後、火の始末
- エレベーターは使用せずに階段で避難  
※本学のエレベーターは、地震発生時に自動停止するシステムになっています。
- 正確な情報収集を行い、なるべく集団で行動
- 負傷者の救護や初期消火に協力
- 家族との安否確認及び大学への安否報告

大学からの情報はホームページでお知らせします。

地震発生から避難まで ⇒裏面

## 家族等への連絡方法

### 【NTT災害用伝言ダイヤル】

災害発生時など被災地との電話連絡がとりにくいときでも被災地の方との連絡・安否確認ができる便利な声の伝言サービスです。

1. 伝言の登録（被災地）  
～自分の安否情報を相手に伝えたい時  
①「171」をダイヤルする。  
②ガイダンスに従い「1」をダイヤルする。  
③自分の電話番号を市外局番からダイヤルする。  
④メッセージを録音する。（30秒以内）

2. 伝言の再生  
～相手の安否情報を確認したいとき  
①「171」をダイヤルする。  
②ガイダンスに従い「2」をダイヤルする。  
③相手の電話番号を市外局番からダイヤルする。  
④安否状況を確認する。

- 登録できる電話番号  
災害により電話がかかりにくい被災地域の電話番号
- 伝言保存期間  
登録後48時間まで

### 【携帯電話会社の災害用伝言サービス】

大規模災害発生時に、携帯電話から安否状況を登録し、登録された安否情報をインターネット等を通じて確認できるサービスがあります。詳細は各携帯電話会社のホームページで確認ください。

## 日頃の準備

大規模地震の発生を防ぐことはできなくても適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。どのような備えが必要か日頃から考えておくことが大切です。

- 大学及び自宅周辺の一時避難場所と避難経路の確認
- 最寄りの非常階段の位置の確認
- 最寄りの消火器の設置場所の確認
- 自宅へ歩いて帰宅する場合の経路及び所要時間の確認（災害時徒歩約2.5km/h）
- 具体的な情報収集手段及び緊急避難場所等の確認（大学及び通学・通勤途中）
- 自宅の棚、タンス等の転倒防止対策
- 緊急時情報メモの作成
- 非常用アイテムの確認・準備
- 大学への連絡方法の確認
- 家族との連絡方法の確認
- 災害用伝言サービス利用方法の確認

## 非常用アイテム

### 非常用持出し品の例

- 現金
- 学生証・身分証明書
- 免許証
- 健康保険証
- 預金通帳
- 印鑑
- 絆創膏・包帯
- 常備薬
- 携帯ラジオ
- 懐中電灯
- 予備電池
- 下着・上着・軍手等
- 雨具
- タオル・テッシュペーパー

### 非常備蓄品の例（3日分程度）

- 飲料水（1人1日3ℓを目安）
- 非常食品  
乾パン、缶詰（缶切り）、レトルト食品、  
栄養補助食品、ドライフーズ、  
インスタント食品、菓子類等
- その他生活用品  
毛布、寝袋、洗面道具、ポリタンク、  
ろうそく、ライター、使い捨てカイロ、  
ロープ、ビニール袋、卓上コンロ、  
ガムテープ、トイレトペーパー等



# 北海道教育大学 大地震対応 マニュアル

このマニュアルは大きな被害が想定される震度6弱以上の地震が発生したときに身を守り、発生後の混乱を乗り越えるための対応をまとめたマニュアルです。財布や手帳のポケットなどに入れて携帯できます。

2017.4

## 緊急時情報メモ

氏名 .....

所属キャンパス .....

学生番号 .....

緊急連絡先 .....

住所 .....

生年月日 .....

血液型 .....

持病 .....

常用薬 .....

アレルギー .....

自宅近くの避難場所 .....

※A4サイズに印刷し、余白を切り取り、折り込むと携帯サイズにできます。